



いけにえの淵

②

そのころ、伝法村の保寿寺に、芝源という立派なおしょうさんがいました。おしょうさんは、なんとかうねめを助けたいとさんまたの淵にやって来ました。「大蛇よ、いけにえをとるなどそんな悪いことをしてはいけない、おまえのおかげで、みんながめいわくしているんだぞ」と熱心にさとしました。

その夜、真夜中のことです。「お

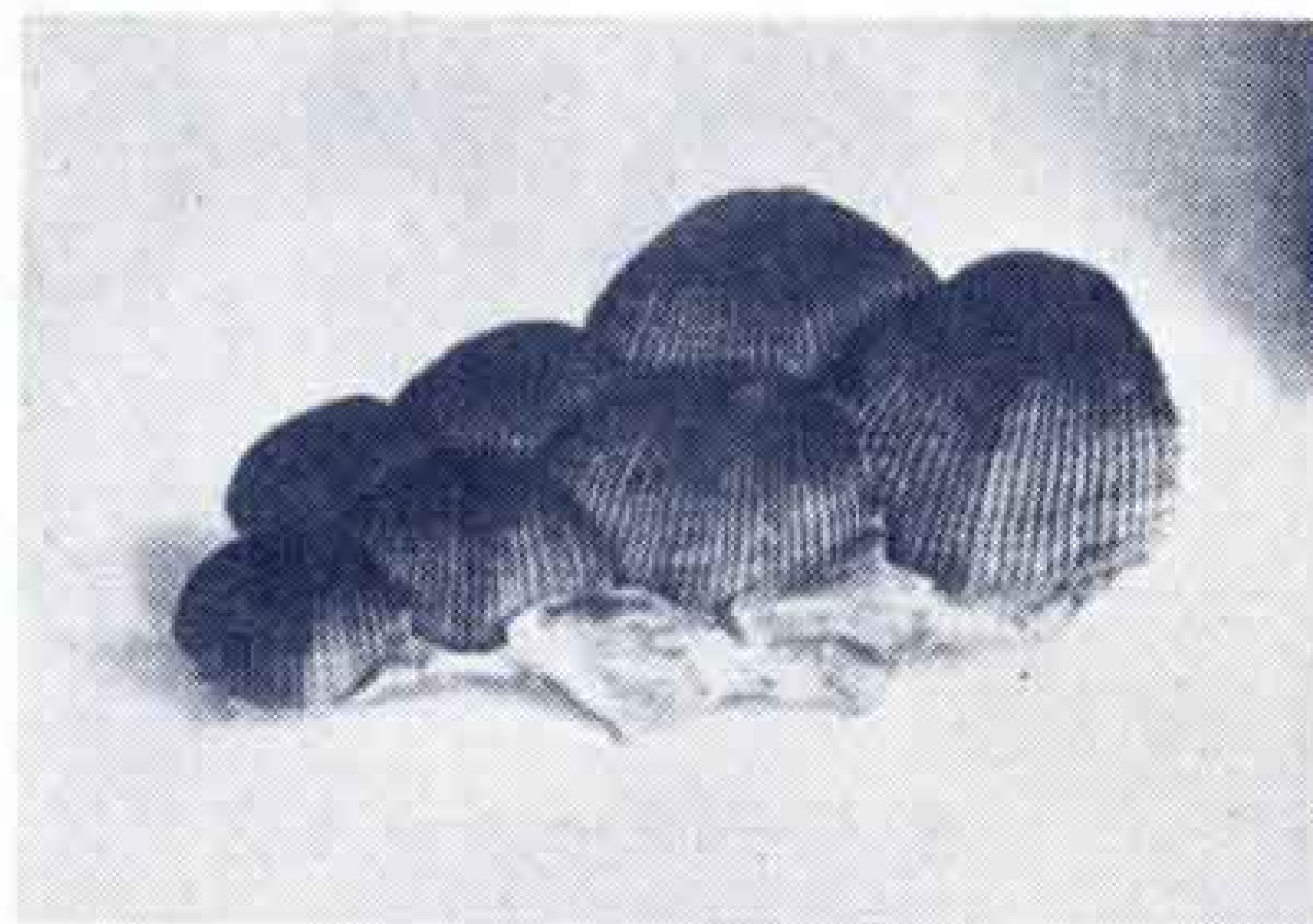
しょうさま、おしょうさま」と呼ぶ声がしました。「私はさんまたの大蛇です。いままでずい分みなさまを苦しめてきましたが、今日のおしょうさまのお話で自分の悪いことがよくわかりました。どうぞお許してください。」おしょうさんはそれを聞いてほっとしました。「よし、その話にまちがいはなかるうな。それなら何かしょうこになるものを置いていてもらいたい。」夜が明けると、おしょうさんのまくらもとには、大蛇のうろこが7枚置いてありました。

うねめがいけにえになる日です。うねめの乗った石のかごが、だんだん黒くうずを巻いた淵におろされていきます。その時、「お〜い、

まてよお」と遠くから走ってくる人【保寿寺に保存されている大蛇のうろこ】

があります。保寿寺のおしょうさんです。おしょうさんは、きのうの出来事をみんなに話しました。うねめは夢かと思いました。もういけにえにならなくてもよいのです。

うねめの話は全国に広がりました。うねめは千両とそのうえたくさんのごほうびまでいただいて、お父さんお母さんのまつ熱田へ帰って行きました。



親と子の市政教室

富士まつりみこしパレード



夏の思い出



県内のガールスカウトが丸火でキャンプ大会



市民プールもチビっ子でおおにぎわい